

# 今後求められるリスクコミュニケーションの取組(私案)

## ■ キーワード: 価値共創、社会からの信頼(社会連携)

※「主語」はひとまずペンディングとした。

### ① 大学を核とした自治体、企業、市民等のコミュニケーションの場の形成

- ✓ 例えば、アフターファイブに、職業を離れた交流、役割交換の上でディスカッション等。大学(専門家)はファシリテータとして活躍。
- ✓ 平時から、職業(社会的役割)を越えた「共感」「共苦」の醸成 ⇒ リスクに関する円滑なコミュニケーションの下地となる。

### ② 学会間で連携した情報発信、イベント等の開催

- ✓ 社会的課題(例: 巨大な想定を前にした社会のあり方等)について、多角的な観点から議論を紹介 ⇒ 社会的課題に対するより深い理解の醸成、コンフリクトやアジェンダの明確化につながる。

### ③ 事後検証や追跡調査及びそこから得られた教訓の活用状況の可視化

- ✓ 時間の経過とともに、被害・危害事例は風化する。行政や学術の現場では、粘り強い事後検証や追跡調査等が行われていることも少なくないが、その取組が世間一般に知られることはほとんどない。
- ✓ 被害・危害事例からの教訓の整理、次代に活かす取組を可視化することで、行政・学術界等に対する社会からの信頼を醸成する。

株式会社 三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部 社会イノベーショングループ 山口健太郎